

明石城の歴史



明石城の築城

元和三年(1617)、小笠原忠政(のち忠真)が信濃松本より明石に国替えとなり、現在の明石城より南西約1km程の所にあった船上城に入ったことから明石藩が生まれた。

現在の明石城は、元和四年(1618)徳川二代將軍秀忠が、西国諸藩に対する備えとして、藩主小笠原忠政に新城の築城を命じたことに始まる。秀忠は姫路城主であった本多忠政の指導を受けるよう命じ、3カ所の築城候補地をあげ、現在の地が選ばれた。幕府は普請費用として銀壹千貫目(時価31億円程度)を与え、3名の普請奉行を派遣している。

石垣の普請(=現在の土木工事)は元和五年(1619)の正月に始められ、工事は町人請負で行われたとされる。本丸、二ノ丸等の城郭中心の石垣、三ノ丸の石垣、土塁及び周辺の堀の普請が同年八月中旬に終わり、幕府より派遣の普請奉行はその任を終え江戸へ帰参している。幕府直営工事は本丸、二ノ丸、三ノ丸までで、その他の郭の石垣・土塁工事は幕府と小笠原氏の共同工事で行われている。

普請を終え、同年九月から藩主小笠原忠政により櫓、御殿、城門、堀などの作事(=現在の建築工事)が始められ、その用材は幕府の一国一城令により廃城となった伏見城及び自領内の三木城などの資材を用いて建てたとされている。創建当初の坤櫓については次の史料があり、伏見城の建物を幕府からもらい受け、移築されたことを示している。

「坤ノ櫓ハ伏見御城ノ櫓ナリシヨ此度公儀ヨリ公工下サレコレヲ建ル」『小笠原忠真年譜』

「幕府から伏見御城の三重櫓一つ下され、御本丸未申の角に立候也」『笠系大成附録』

各建物の建築は翌元和六年(1620)四月に完了した。

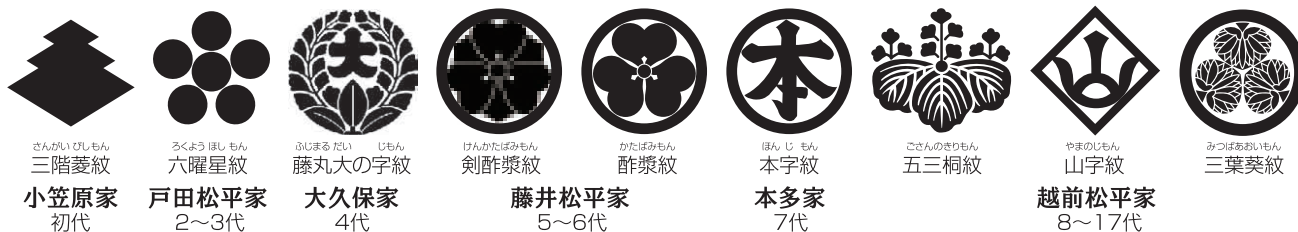
築城当時の明石城は、本丸に御殿を築き、四隅に三重の櫓を配したが、天守台の石垣は築かれたものの、天守は建てられなかった。



歴代城主一覽表

代	氏名	官名	禄高	在任	入封年月日と前任地		転封年月日と任地	
1	小笠原忠政 ^(忠貞)	右近大夫	10万石	16年	1617年	元和3年7月 信濃松本	1632年	寛永9年11月 豊前小倉
—	本多忠義	能登守	幕府直轄	6ヵ月				
—	本多政勝	内記						
2	松平康直	丹波守	7万石	1年	1633年	寛永10年4月 信濃松本	1634年	寛永11年5月 死去
3	松平光重	丹波守	同	5年	1634年	寛永11年5月 家督相続	1639年	寛永16年2月 美濃加納
4	大久保季任 ^(ただもと)	加賀守	同	11年	1639年	寛永16年3月 美濃加納	1649年	慶安2年7月 肥前唐津
5	松平忠国	山城守	同	11年	1649年	慶安2年7月 丹波篠山	1659年	万治2年2月 死去
6	松平信之	日向守	6万5千石	21年	1659年	万治2年2月 家督相続	1679年	延宝7年10月 大和郡山
7	本多政利	出雲守	6万石	4年	1679年	延宝7年10月 大和郡山	1682年	天和2年2月 陸奥岩瀬
8	松平直明	若狭守	同	20年	1682年	天和2年3月 越前大野	1701年	元禄14年10月 退任
9	松平直常	但馬守	同	43年	1701年	元禄14年10月 家督相続	1743年	寛保3年2月 退任
10	松平直純	左兵衛督	同	21年	1743年	寛保3年2月 同	1764年	明和元年3月 死去
11	松平直泰	左兵衛督	同	21年	1764年	明和元年5月 同	1784年	天明4年10月 退任
12	松平直之 ^(なほゆき)	左兵衛佐	同	2年	1784年	天明4年10月 同	1786年	天明6年4月 死去
13	松平直周 ^(なほちか)	左兵衛督	同	30年	1786年	天明6年6月 同	1816年	文化13年9月 退任
14	松平斉韶 ^(なほなり)	左兵衛督	同	25年	1816年	文化13年9月 同	1840年	天保11年2月 退任
15	松平斉宜 ^(なほなり)	兵部大輔	8万石	4年	1840年	天保11年2月 同	1844年	天保15年6月 死去
16	松平慶憲 ^(よしゑ)	兵部大輔	同	26年	1844年	天保15年7月 同	1869年	明治2年2月 退任
17	松平直致 ^(なほむね)	左兵衛督	同	5ヶ月	1869年	明治2年2月 同	1869年	明治2年6月 版籍奉還
		明石藩知事			1869年	明治2年6月 任命	1871年	明治4年7月 廃藩置県

家紋



建築装飾

